

指標に対する総合戦略部会委員からの意見と対応一覧

基本目標No	指標・KPI	意見内容	意見に対する回答	修正有無
3	将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合	夢や目標を持っていないからだめだということではないので、増加をめざすべき指標なのか疑問に感じる。	委員のご意見を踏まえ、自己肯定感・自己有用感を測定するため、『「自分にはよいところがある」と思う児童・生徒の割合』に指標を変更することとします。	あり
3	「学校に行くのは楽しい」と答えた児童の割合（児童：小学校6年生） 「学校に行くのは楽しい」と答えた生徒の割合（生徒：中学校3年生）	子どもたちが学校に行くのが楽しくないといけなと思うまいように配慮してほしい。指標として設定することについて検討いただきたい。	本指標については「学校に行くのが楽しくないといけな」という趣旨での指標設定ではございませんが、学校運営する教育委員会として、こども達が楽しく学校に通えるよう、学校づくりに取り組んでまいります。 なお、前期戦略では児童と生徒でそれぞれ指標設定しておりましたが、総合計画後期基本計画において、新たに施策指標として設定した指標と整合性を図るため、「「学校に行くのは楽しい」と思う児童・生徒の割合」として一つの指標といたします。	なし
3	子ども・子育てに関する総合相談件数	相談件数そのものを測るのではなく、市民の相談後の満足度・納得度に焦点を当てることが重要ではないか。	・子ども・子育てに関する総合相談件数 ・外国人相談窓口における相談件数 ・八尾市立中小企業サポートセンター相談件数 いずれの指標につきましても、相談件数は各取り組みの進行管理を行う上での活動指標として必要と考えていることから、引き続き同指標を設定しますが、ご指摘の点を踏まえ、今後、相談後の満足度や納得度を図る手法等についても検討してまいります。	なし
4	外国人相談窓口における相談件数			
5	八尾市立中小企業サポートセンター相談件数			
5	立地制度活用による工場立地件数	事業用地の枯渇については行政の努力ではどうしようもない部分であり、指標として掲げるのはどうかとを感じる。後期戦略では別の指標を検討してはどうか。	委員のご意見を踏まえ、「立地制度活用による雇用人数」に指標を変更することとします。	あり
5	-	創業者数の増加を測る指標があってもいいのではないか。総合戦略への位置づけが難しい場合でも、行政として数値を測る仕組みを考えてもらいたい。	市内すべての創業者数を把握するのは困難ですが、創業支援計画にある創業支援を受けた者のうち創業した者の数を「創業支援対象者のうち創業者数」として市の事務事業の指標としておりますので、総合戦略においても新たにKPIとして設定することとします。	あり
5	-	M&Aによる事業継承もある中で、単純な事業所数の増加をめざすとなると行政としては非常に厳しいと思われるので、「事業継承数」のような指標が妥当ではないか。	M&Aによる事業承継は民間同士の契約行為であり、その他の事業承継についても市で把握する方法がないため、指標設定することは難しいと考えております。	なし
6	-	芸術文化の振興について記載があるので、これを測る指標が必要ではないか。	芸術文化のすそ野を広げる取り組みを進めることで、街中に芸術文化があふれていて八尾の魅力を感じることにつなげるため、「八尾市において芸術文化の活動・発表の場が広がっていると思う人の割合」を新たにKPIとして設定することとします。	あり